OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学低温センターだより No.142 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 2008, 142
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21212
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈編集後記〉

私自身は有機化学を専門としており、日常の研究生活で“極低温”と“有機化学”が結びつくのは**NMR**測定ぐらいしかないのが実情です。このため、大阪大学低温センターだよりの編集会議では毎回、研究内容を理解するのに苦労しています。しかし、編集後記担当にあたった本号の研究ノートは**3**件のうち**2**件が幸いにも私にも若干関連のある“有機エレクトロニクス”に関する内容ですので以下に簡単にとりあげたいと思います。有機エレクトニクスに携わる研究者の究極の目標が有機化合物の単一分子をデバイスに用いる“分子エレクトロニクス”の実現です。今回の研究ノートではこの分子エレクトロニクス実現に不可欠な「共役オリゴマー単分子の電気伝導度の計測」、「単層カーボンナノチューブを用いた単電子トランジスタ開発」の最新・最先端の研究成果が報告されており、非常に興味深い知見が得られています。是非、御一読下さい。

さて、ここからは宣伝になりますが、有機化合物をデバイスに利用する有機エレクトロニクスの研究は世界中で活発に行われており、ごく最近ではソニー(株)から有機**EL**テレビが発売されるまでに至っています。大阪大学では、有機エレクトロニクスの分野において先駆的・独創的成果を発信しつづけていますが、世界をリードする研究を引き続き実施するためには研究分野の垣根を越えた協力体制が不可欠な状況となってきています。この観点から、研究者間の情報交換、交流、共同研究の推進を目的とした“大阪大学有機エレクトロニクス研究会”が昨年**12**月に発足しました。本号を読まれて有機エレクトロニクス（あるいは分子エレクトロニクス）に興味をもたれた方は是非ホームページ（**http://www.molectronics.jp/yukiele.html**）をご覧になり、入会して頂ければ幸いです。

最後になりましたが御多忙の中、本号の原稿を執筆していただきました先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

（家　裕隆）

大阪大学低温センターだより　第142号
平成20年4月　発行

編集責任者　北　岡　良　雄
発　行　者　大阪大学低温センター
吹田分室　大阪府吹田市山田丘2番1号
電話（06）6879−7985
豊中分室　大阪府豊中市待兼山町1番1号
電話（06）6850−6090

印　刷　所　阪東印刷紙器工業所
大阪市福島区玉川3丁目6番4号
電話（06）6443−0936（代表）

目　　次

No. 142

研究ノート

単一分子の電気伝導度計測
…… 基礎工学研究科　山田　亮
　　彡田　博一 …… **1**

単層カーボンナノチューブを用いたデバイスの作製
…… 産業科学研究所　大野　恭秀
　　前橋　兼三
　　井上　恒一
　　松本　和彦 …… **6**

生体分子複合体構造解析のための
ラジオ波テラヘルツ波固体磁気共鳴分光法の発展
…… 蛋白質研究所　藤原　敏道 …… **12**

談話室

米国研究機関での体験談
…… 基礎工学研究科　木村　剛 …… **19**

高温超伝導の父、K. Alex Müller教授**80**歳の誕生日を祝して
開かれた国際会議DELFS III
…… 産業科学研究所　安藤　陽一 …… **22**

お知らせ

冊子媒体による外国雑誌の一部購入終了について …… **25**
投稿のご案内 …… **26**
定期購読・送付先変更について …… **27**

平成19年度寒剤供給量 …… **28**

表紙説明：(左)カーボンナノチューブ電界効果トランジスタに集束イオンビームを用いて欠陥を導入している模式図（本文ｐ.６参照）
(右)走査型トンネル顕微鏡を用いたブレイクジャンクション法（STM―BJ法）による単一分子計測の模式図（本文ｐ.１参照）